

## 1. 略歴

2002年3月	東京大学文学部歴史文化学科（日本史学専修課程）卒業
2005年3月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻（日本史学）修士課程修了
2009年4月	財団法人三井文庫契約研究員
2010年3月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻（日本史学）博士課程修了
2010年3月	博士（文学）学位取得
2010年4月	公益財団法人三井文庫研究員
2015年7月	公益財団法人三井文庫主任研究員
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本近世史

### b 研究課題

近世の天皇・朝廷の研究、近世都市豪商の研究

### c 概要と自己評価

もっぱら三井家の史料に沈潜し、豪商の組織運営における利用の諸相から、近世の天皇・朝廷の機能・実態を検討した。従来研究してきた2つの領域の直接的な接点を考えたもので、利用の多様なあり方を、組織運営・内紛の歴史過程に内在して解釈し、都市宗教者をめぐる議論とも接合した点は、研究史上ある程度ユニークな試みであったと思うが、事実の羅列にとどまった感があり、近世社会のなかでの一般化になお課題が残った。共同研究等を通じては、ジェンダー史や画像史料の利用など、今後活かしてゆきたい分析視角・方法に触れ、若干試行することができた。また概説的な原稿の執筆や講演を通じて、従来の研究を要約する機会がいくつかあり、課題の所在と今後の研究計画を再考することができた。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、春名宏昭・高橋典幸・村和明・西川誠、『皇位継承 歴史をふりかえり、変化を見定める』、山川出版社、55-75頁、2019.4

共著、高埜利彦、村和明ほか、『論集 近世の天皇と朝廷』、岩田書院、471-494頁、2019.5

共著、杉森哲也、村和明ほか、『シリーズ三都 京都巻』、東京大学出版会、75-99頁、2019.7

#### (2) 論文

村和明、「近世の皇位継承」、『歴史と地理 日本史の研究』720、1-14頁、2018.12

村和明、「近世の天皇・上皇と幕府」、『文化交流研究』32、77-83頁、2019.3

村和明、「三井からみた慶応三・四年一代官所年貢金取扱御用をめぐって」、『明治維新史研究』17、94-101頁、2019.11

#### (3) 学会発表

国内、村和明、「近世巨大商家におけるジェンダー史的観点の可能性」、国立歴史民俗博物館共同研究「日本列島社会の歴史とジェンダー」第7回研究会、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）、2018.5

国内、村和明、「都市豪商からみた慶応3・4年」、明治維新史学会第48回大会、駒澤大学（東京都世田谷区）、2018.6

国内、村和明、「近世三井家の内部抗争と決算帳簿」、東京大学経済史研究会、東京大学小島ホール（東京都文京区）、2019.6

#### (4) マスコミ

「歴史の審判を待つ—日本史の観点から探る出典選定の意図」、『東京大学新聞』、2018.5.14

#### (5) 共同研究（産学連携除く）

国内、主催、東京大学史料編纂所、一般共同研究「近世朝廷行事の通時変化と空間構成に関する史料情報の研究資源化」、2019

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

横浜開港資料館、「戊辰戦争と三井」、2018.9

東京大学フューチャーセンター推進機構・大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター共催公開講演、「江戸時代から考える改元・上皇・皇位継承」、2019.6

非常勤講師、東京女子大学、「日本史演習」、2018.4～2020.3

非常勤講師、東京女子大学、「4年次演習」、2018.4～2018.9、2018.4～2019.9

非常勤講師、慶應義塾大学、「日本史概説」、2019.8

#### (2) 学会

国内、日本古文書学会、学術雑誌編集委員、2018.4～